

伊賀市 「事務事業評価」 結果総括シート〔2次評価シート〕

(1)政策	コード	名称
	20	(1)地域資源を活かした活力あるまちづくり

(2)基本施策	コード	名称	(3)生活課題	43	全国の人が、伊賀の特産物を認めている
	43	②伊賀ブランドの価値を高め、売り出す			

(4)評価実施年度	平成 20 年度
-----------	----------

(5)評価責任者職名	産業振興部長
------------	--------

(6)評価責任者氏名	半田 泰士
------------	-------

(7)評価者	伊賀支所長、阿山支所長、大山田支所長、青山支所長
--------	--------------------------

(9)継続・新規 (20.21.22.23)	コード	(10)事務事業名	コード	(11)担当部課名	(12)事業費(千円)			(13)H21投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標)		1次評価結果								
					H19 決算額	H20 予算額・補 正要求額	H21 要求 見込額	人	人件費	(14)指標名	指標の数値		(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型	個別評価				(23) 総合 評価	(24) 方向性
											(15) 19年度 (実績)	(16) 21年度 (目標)			(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性		

2次評価										(33)その他の改革 改善点について
(25) 1次評 価修正 有・無	(26)修正点	(27)修正の理由	(28) 改革改善 案修正の 有・無	(29) 修正点	(30) 優先 度区 分	(31) 方向 性	(32) 方向性の評価につ いて			

継続	333	伊賀米等生産振興対策事業	160100	農林振興課	3,129	2,629	2,629	0.1	720	生産調整目標 の達成率	114	110	%	I	4	4	4	3	A	現状維持
継続	794	伊賀米生産振興経費	653500	阿山産業建設 課	160	91	91	0.1	720	集落営農組織 数	16	16	組織	I	4	3	4	3	A	現状維持
継続	336	特産野菜等生産振興支援事業	160100	農林振興課	4,978	4,000	4,000	0.1	720	補助面積	416	420	10a	I	4	4	4	3	A	現状維持
継続	341	菜の花プロジェクト	160100	農林振興課	680	42,000	60,000	0.3	2,160	菜の花植栽面 積	1,000	500	a	II	4	4	3	4	A	拡大
継続	355	畜産振興事務経費	160100	農林振興課	2,118	1,953	1,953	0.1	720	優良素牛導入 頭数	293	360	頭	I	4	3	3	4	A	現状維持
継続	638	畜産振興事務経費	553500	伊賀支所産業 建設課	1,425	1,352	1,352	0.2	1,440	予防接種頭数	459	430	頭	I	4	4	3	3	A	現状維持
継続	799	畜産振興事務経費	653500	阿山産業建設 課	1,327	1,062	1,062	0.2	1,440	予防接種対応 頭数	776	800	頭	I	4	3	3	3	A	現状維持
継続	896	畜産振興事務経費	703500	大山田支所産 業建設課	630	417	630	0.2	1,440	優良素牛導入 数	140	140	頭	I	4	3	3	3	A	変更
継続	1009	畜産振興事務経費	753500	青山支所 産 業建設課	60	39	39	0.1	720	研究会・会議 参加会員延べ 人数	20	25	人	I	4	2	4	2	C	変更
	375	地場産業振興事業	160500	産業振興部商 工観光課	1,600	1,490	1,490	0.7	5,040	物産展催事の 売上高	3901	3900	千円							現状維持

無	—	—	無	—	1G	a	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀米の振 興(価格向上対策) 上、販売戦略の拡大を 図れるよう施策内容の 充実を図る必要が認 められる
無	—	—	無	—	3G	c	特に集落営農を維持し ながら特色ある地域農 政の振興を図れるよう 事業のモデル化を図る 必要がある
無	—	—	無	—	1G	a	唯一地域特性を發揮 し食糧自給の効率を 高める政策誘導であり 政策効果が高いため、 生産者ニーズを吸収 できるような制度拡大改 革が必要
無	—	—	無	—	1G	a	低炭素社会実現に向 けたトレンド性が極め て高い施策であり、遊 休農地対策などコンセ プト性にも富むため政 策拡大改革が必要
無	—	—	無	—	2G	b	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀牛の生 産振興上、基牛導入 の拡大を図れるよう施 策内容の充実を図る 必要が認められる
無	—	—	無	—	3G	c	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀牛の生 産振興上、感染症予 防の拡大を図れるよう 施策内容の充実を図 る必要が認められる
無	—	—	無	—	3G	c	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀牛の生 産振興上、感染症予 防の拡大を図れるよう 施策内容の充実を図 る必要が認められる
無	—	—	無	—	2G	b	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀牛の生 産振興上、基牛導入 の拡大を図れるよう施 策内容の充実を図る 必要が認められる
無	—	—	無	—	3G	c	飼料穀物の高騰など による危機に瀕する酪 農業を中心とする畜産 業界の連携を強化し 地産地消を進展できる よう政策内容の充実が 求められている
無	—	—	無	—	4G	d	事業効果が定着しつ つあるため事務局を民 営化方向に見直し、委 託事業から補助事業 への転換を図り自立 的な取組へ誘導

伊賀市「事務事業評価」結果総括シート〔2次評価シート〕

(4)評価実施年度	平成 20 年度
-----------	----------

(1)政策	コード	名称
	20	(1)地域資源を活かした活力あるまちづくり

(5)評価責任者職名	産業振興部長
------------	--------

(6)評価責任者氏名	半田 泰士
------------	-------

(2)基本施策	コード	名称	(3)生活課題	43	全国の人が、伊賀の特産物を認めている
	43	②伊賀ブランドの価値を高め、売り出す			

(7)評価者	伊賀支所長、阿山支所長、大山田支所長、青山支所長
--------	--------------------------

(9)継続・新規 (20.21.22.23)	コード	(10)事務事業名	コード	(11)担当部課名	(12)事業費(千円)			(13)H21投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標) 指標の数値	1次評価結果										
					H19 決算額	H20 予算額・補 正要求額	H21 要求 見込額	人	人件費		(14)指標名	(15) 19年度 (実績)	(16) 21年度 (目標)	(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型	個別評価				(23) 総合 評価	(24) 方向性
																(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性		
継続	805	地場産業振興事業	653500	阿山産業建設課	3,538	3,504	3,504	0.2	1,440	伝統産業会館 入館者数	3,535	3,750	人	I	4	3	4	3	A	現状維持	
継続	888	収穫まつり開催事業	703500	大山田支所産業建設課	2,700	2,700	2,700	0.3	2,160	来客数	8,000	8,500	人	I	4	3	3	3	A	現状維持	
継続	1001	ふれあいフェスタ開催事業	753500	青山支所産業建設課	1,750	1,750	1,750	0.2	1,440	入場者数(スタッフ等関係者除く)	2,500	3,000	人	I	4	4	2	3	B	現状維持	

2次評価										(33)その他の改革 改善点について
(25) 1次評価 修正 有・無	(26)修正点	(27)修正の理由	(28) 改革改善 案修正の 有・無	(29) 修正点	(30) 優先 度 区分	(31) 方向 性	(32) 方向性の評価につ いて			
無	—	—	無	—	2G	b	伊賀の地域ブランドを 代表する伊賀焼の生 産振興上、販売の拡 大を図れるよう施策内 容の充実を図る必要 が認められる			
無	—	—	無	—	4G	d	他財源(国の政策資 源)の導入によるイベ ントの一元化 事業効果が定着しつ つあるため事業主体を 民営化方向に見直し、 委託事業から補助事 業への転換を図り自 立的な取組へ誘導す			
無	—	—	無	—	4G	d	他財源(国の政策資 源)の導入によるイベ ントの一元化 事業効果が定着しつ つあるため事業主体を 民営化方向に見直し、 委託事業から補助事 業への転換を図り自 立的な取組へ誘導す			